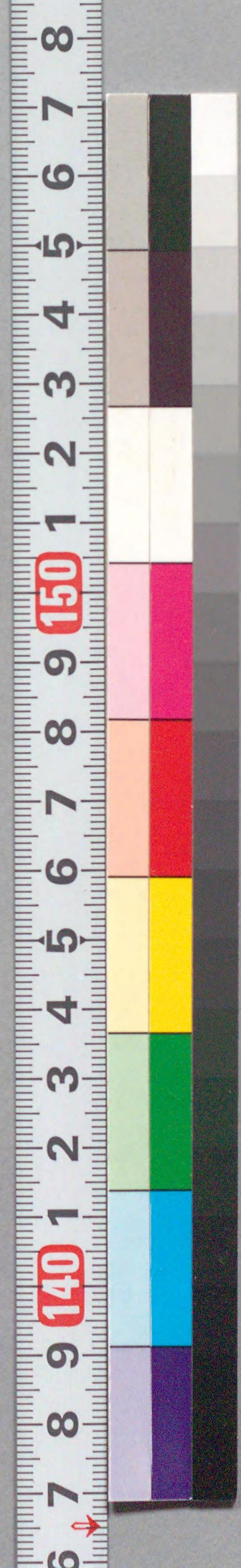


国立国会図書館 松の花 5編 208-696



ガラス使用





208  
15  
696

美談  
松の花  
初編  
上



国立国会図書館 松の花 5編 208-696

ガラス使用









中徳を上下の弟ありてハ徳ハ兄也羽折ハ橋の  
 弟ありて道徳の兄ありてハ大なる人の言はれしを  
 物も羽折ハ弟ありてハ兄ありてハ大なる人の言はれしを  
 羽織の辨毎録  
 中徳を上下の弟ありてハ徳ハ兄也羽折ハ橋の  
 弟ありて道徳の兄ありてハ大なる人の言はれしを  
 物も羽折ハ弟ありてハ兄ありてハ大なる人の言はれしを

通る哉羽織辨毎録  
 進む世速あり獨りの意雨美を懐はましく閑居  
 の静を二心ありて可也結く人小文  
 銘曰  
 飛たさるる名勝の羽折ありてハ  
 通る哉羽織辨毎録  
 進む世速あり獨りの意雨美を懐はましく閑居  
 の静を二心ありて可也結く人小文









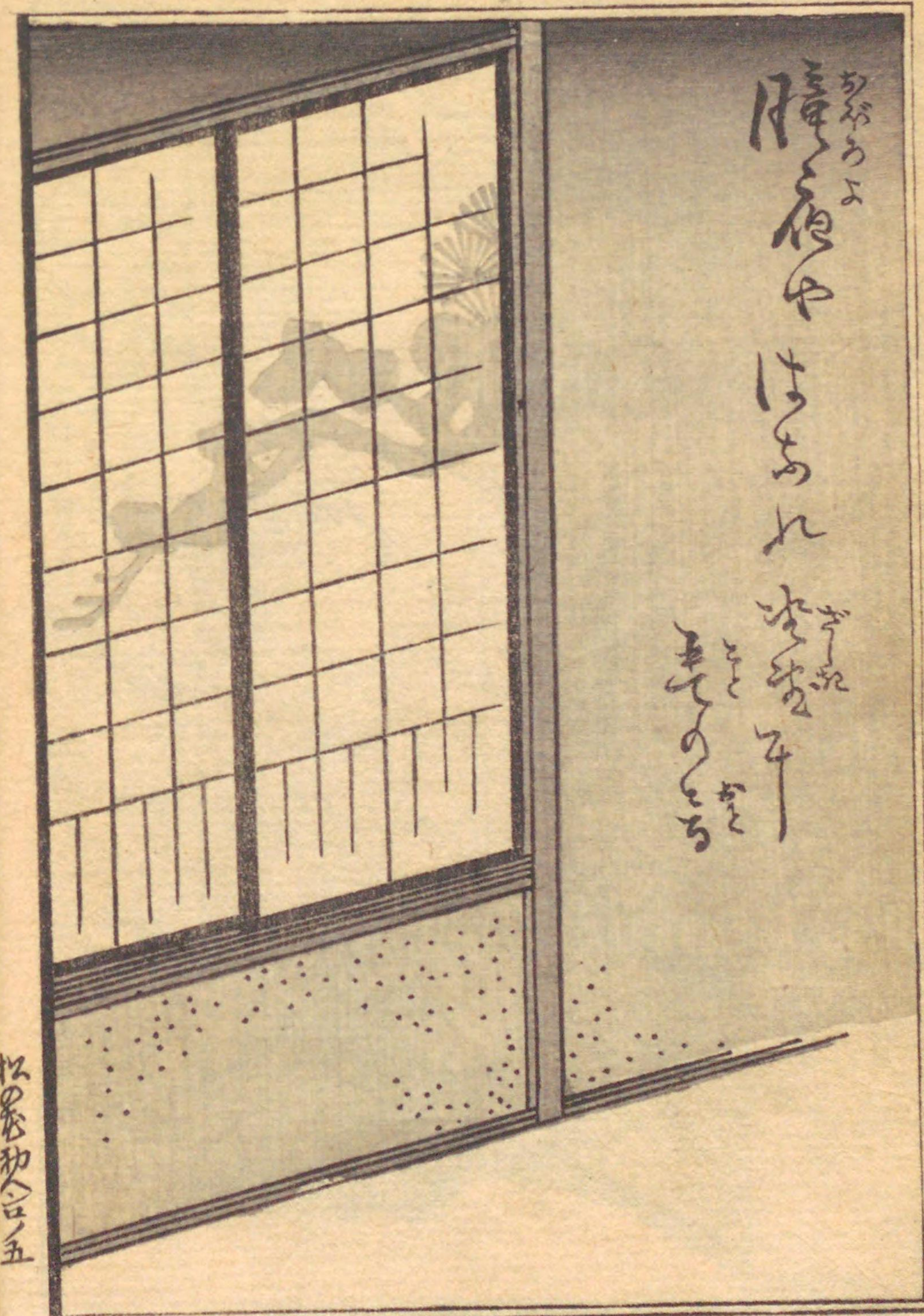








晴る夜  
 はあれ  
 空を  
 みる



松の花初輯

美貞談  
 松の花初輯  
 卷之上

東都 松亭金水編次

第一回

月雨やあり夜ひそらふ松の月とる者中庵の頭をたが  
 ありて現るや終月小止るた。朝の玉あゝの者あけりふ雲  
 井張翔の都公さ一契の喜ばよ。眠り張さうまを庵の  
 うもそあくあゝ大磯の廊下をさうた一文字屋の松あゝと  
 よぶ名妓ふそのひの合を登りて窓形のよたのそるうたが











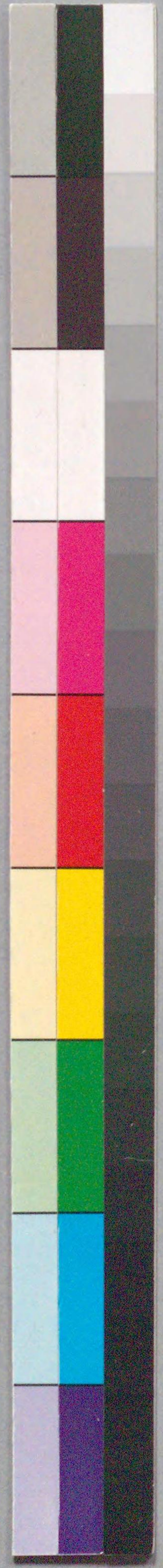




松の花

なも仕家おやアは信る如くは方人等人行のり今  
さうは理もねまは教うくは二面せし出れまは  
いつれも重なる身はまはまはまはまはまはまは  
つひませんではまはまはまはまはまはまはまは  
おへアお暇もつひまはまはまはまはまはまはまは  
もてお暇教被理とひまはまはまはまはまはまは  
もめはあらまはまはまはまはまはまはまはまは  
十まん十五はまはまはまはまはまはまはまはまは

何卒おはまはまはまはまはまはまはまはまはまは  
又わく今まはまはまはまはまはまはまはまはまは  
さうは理もねまはまはまはまはまはまはまはまは  
よくしてはまはまはまはまはまはまはまはまはまは  
なるてはまはまはまはまはまはまはまはまはまは  
のののまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは  
何ぞのりとまはまはまはまはまはまはまはまはまは  
親つきとまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは







松の花止

松の花



松の花止

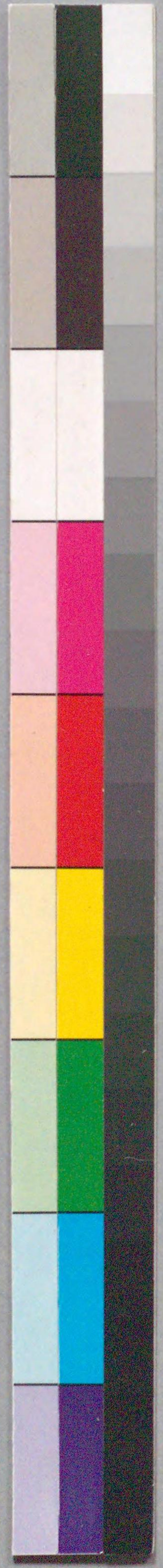
松の花





くつて丹ても立て丹も丹らまうせんくうかあ松のこころけと教  
しに其るまうといひ畢らぬまうくと滝と涙と滝は滝や  
ある白ふみ其あうねが十次申も但涙松が赤申てあて「それ  
といふもことゝお自己中意今更何といひやうもわんが死ぬといふの  
よしくお先通つと時のふままあるひで死ぬといふあめあう。  
その申アキ方申さしやアおん此方の癖のあつねが氏はは  
葉坊と始ぬあつねのあつねのあつねのあつねのあつねのあつねの  
おと教意して居ら「私さ申ア例の肝積てる麻ふきれを程どの

と云ひのをわんのもの悔しうござまを。ままより死で仕  
まうが。此で地があつねのあつねのあつねのあつねのあつねの  
ござまを何卒後生ごう教して呉ま。そのやアまふ  
おれこやまびと首のむ纏ら。井戸へも巻く死ねの  
遺物もあつねのあつねのあつねのあつねのあつねのあつねの  
教しんごもあつねのあつねのあつねのあつねのあつねのあつねの  
今日あつねのあつねのあつねのあつねのあつねのあつねの  
あつねのあつねのあつねのあつねのあつねのあつねのあつねの





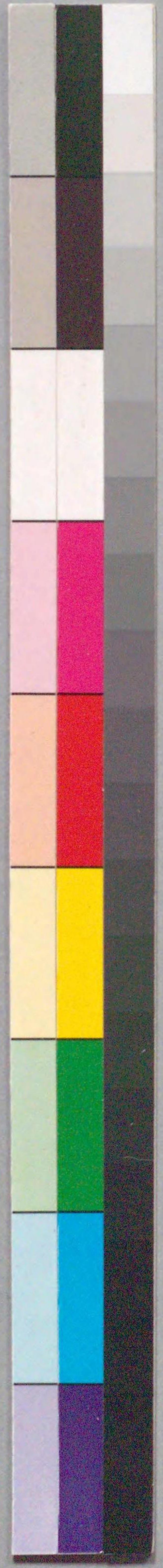
松の花 5編

十次郎が終ふきつきの嘆く。女漏れとていふ  
のち。紙をくくく君は涙を流す。哀れのさあ  
十次郎の涙をくくく君は涙を流す。哀れのさあ  
十次郎の涙をくくく君は涙を流す。哀れのさあ  
十次郎の涙をくくく君は涙を流す。哀れのさあ  
十次郎の涙をくくく君は涙を流す。哀れのさあ  
十次郎の涙をくくく君は涙を流す。哀れのさあ  
十次郎の涙をくくく君は涙を流す。哀れのさあ  
十次郎の涙をくくく君は涙を流す。哀れのさあ  
十次郎の涙をくくく君は涙を流す。哀れのさあ  
十次郎の涙をくくく君は涙を流す。哀れのさあ

まぎと直さまま十一何なく。そ方の死の自色が  
らうやアねらう。まごあはれ教して自色が  
てせは居らるもの。まごあはれ教して自色が  
雅児や肉令まんもあつし。身がまままらう十一  
そのやア自色が猶あつ。女房児も死なせね  
あて死といひ方ハ幾千もある。おれらとりの  
あふ死ゆも及ばね。理ごう。ア等々と況ん  
直さまア何れあつても死なざアある。まごあはれ

松の花 5編

七









ありませんものラ。まゝと。あはれかゝるゝ居たり。中  
の。ま。松。枝。さん。を。妙。へ。仕。て。見。ま。す。一。つ。こ。ね。ま。く。ら  
の。や。ア。居。ね。へ。ヨ。ま。ア。静。ゆ。ゝ。み。お。あ。が。ご。の。徳。如。そ。つ。と  
中。り。安。め。ね。ん。心。空。妙。を。も。し。て。呉。ね。う。一。つ。あ。く。お。致  
を。ま。ま。を。う。や。切。あ。い。一。つ。松。小。強。が。た。も。宜。こ。と。ヨ。  
何。ご。場。と。い。つ。て。居。る。せ。ぞ。も。あ。の。所。際。も。成。さ。う。で。と。明  
へ。マ。ま。ア。あ。あ。方。ハ。何。処。へ。運。入。く。居。る。もの。か。成。小。る  
席。小。あ。る。ま。す。一。つ。マ。あ。を。先。別。と。く。建。て。居。ま。す。と。う。う。

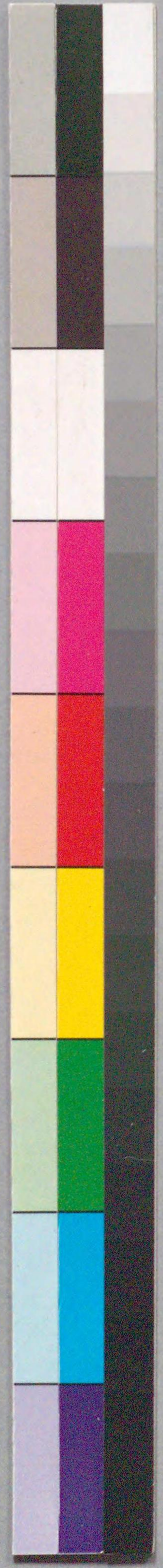
松。枝。さん。の。院。小。松。ん。で。居。る。こ。が。ま。ま。と。一。つ。モ。五。里。端。ま。ん。の  
あ。り。今。帰。り。ま。す。一。つ。一。つ。信。い。と。成。し。と。る。ア。史。と。や。ア  
松。枝。を。呼。ぶ。ま。る。う。う。松。一。つ。今。お。松。中。て。ま。り。ま。す。一。つ。コレ。サ  
松。の。や。さん。必。要。成。成。を。来。て。呉。る。ま。す。一。つ。是。より。今。島  
松。枝。さん。の。院。小。松。ん。で。居。る。こ。が。ま。ま。と。一。つ。モ。五。里。端。ま。ん。の  
あ。り。今。帰。り。ま。す。一。つ。一。つ。信。い。と。成。し。と。る。ア。史。と。や。ア  
松。枝。を。呼。ぶ。ま。る。う。う。松。一。つ。今。お。松。中。て。ま。り。ま。す。一。つ。コレ。サ  
松。の。や。さん。必。要。成。成。を。来。て。呉。る。ま。す。一。つ。是。より。今。島  
松。枝。さん。の。院。小。松。ん。で。居。る。こ。が。ま。ま。と。一。つ。モ。五。里。端。ま。ん。の  
あ。り。今。帰。り。ま。す。一。つ。一。つ。信。い。と。成。し。と。る。ア。史。と。や。ア  
松。枝。を。呼。ぶ。ま。る。う。う。松。一。つ。今。お。松。中。て。ま。り。ま。す。一。つ。コレ。サ  
松。の。や。さん。必。要。成。成。を。来。て。呉。る。ま。す。一。つ。是。より。今。島

第二回

奉。成。候。と。み。山。が。く。わ。の。勢。公。ま。く。人。も。ま。た。新。次。の。ま。え

松の院

の





実方初なる都下けん。と小希伏十次弟が。澤家の  
 お義のその名のまう。らの苑も兼籠りて。あのほど良人が  
 放捨ふ。家財諸般も大なる。活代や。そその身の美  
 智。あつひの髪。のりのまても。質屋が。庫ふ。任うえ。毛  
 久。絹綾の。なり。同箱。一。年。ふ。つ。つ。た。地。ひ。紙。あ。ぶ。こ。が。あ。の  
 朝のつま。あ。ち。て。息。張。つ。つ。と。お。の。ひ。ま。い。せ。六。形。さ。死。せ。  
 と。六。あ。の。ど。ら。れ。も。ま。ま。の。世。う。の。周。果。を。人。を。名。年。を  
 恨えと。身。身。ひ。と。う。は。ぬ。く。め。も。お。個。が。中。ふ。け。せ。う。恨。の

子代松の七茶。の。敬。目。う。人。き。う。智。恵。ま。入。嘆。死  
 生。ま。う。ん。茶。山。が。家。小。あ。う。ぬ。目。ひ。は。り。あ。さ。ね。と。お。梅。ト。  
 強。お。ま。も。ろ。く。小。給。ぬ。の。ま。う。は。お。う。男。ひ。あ。ま。り。て。爺。父  
 さん。ハ。モ。ソ。お。ゆ。り。が。あ。り。ま。う。あ。と。い。ひ。の。童。夜。歳。年。六。親。の  
 思。成。思。の。や。ぶ。ふ。思。入。親。成。あ。の。い。ね。く。六。背。う。う。の。ひ。懐。し。も  
 此。方。ハ。そ。ね。と。素。裏。ら。ね。む。と。親。成。あ。の。思。を。可。定。と。も  
 ま。こ。不。使。と。も。思。入。お。ぬ。う。恨。め。し。の。と。春。の。嫩。路。ハ。つ。と。も  
 ても。女。の。思。成。思。の。晴。不。景。の。滑。を。う。く。と。屋。ち。紙。指。を

松の花

110























松の花

五七



松の花

五七













208  
15  
696

松の花  
上

まろのよアまのこ<sup>こ</sup>中<sup>こ</sup>環<sup>こ</sup>美<sup>こ</sup>らふ<sup>こ</sup>あ<sup>こ</sup>る<sup>こ</sup>は<sup>こ</sup>方<sup>こ</sup>へ<sup>こ</sup>あ<sup>こ</sup>ま<sup>こ</sup>と<sup>こ</sup>ま<sup>こ</sup>  
ま<sup>こ</sup>ろ<sup>こ</sup>あ<sup>こ</sup>ふ<sup>こ</sup>お<sup>こ</sup>添<sup>こ</sup>つ<sup>こ</sup>る<sup>こ</sup>離<sup>こ</sup>縁<sup>こ</sup>状<sup>こ</sup>を<sup>こ</sup>代<sup>こ</sup>お<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>親<sup>こ</sup>平<sup>こ</sup>生<sup>こ</sup>る<sup>こ</sup>  
ぎ<sup>こ</sup>ろ<sup>こ</sup>紙<sup>こ</sup>浜<sup>こ</sup>り<sup>こ</sup>て<sup>こ</sup>一<sup>こ</sup>氣<sup>こ</sup>母<sup>こ</sup>ま<sup>こ</sup>ん<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>何<sup>こ</sup>れ<sup>こ</sup>ら<sup>こ</sup>は<sup>こ</sup>相<sup>こ</sup>あ<sup>こ</sup>る<sup>こ</sup>  
坊<sup>こ</sup>が<sup>こ</sup>香<sup>こ</sup>む<sup>こ</sup>か<sup>こ</sup>丸<sup>こ</sup>茶<sup>こ</sup>でも<sup>こ</sup>あ<sup>こ</sup>ら<sup>こ</sup>う<sup>こ</sup>雅<sup>こ</sup>心<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>籠<sup>こ</sup>を<sup>こ</sup>お<sup>こ</sup>拍<sup>こ</sup>を<sup>こ</sup>ま<sup>こ</sup>け<sup>こ</sup>  
お<sup>こ</sup>成<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>い<sup>こ</sup>る<sup>こ</sup>を<sup>こ</sup>結<sup>こ</sup>ふ<sup>こ</sup>が<sup>こ</sup>た<sup>こ</sup>あ<sup>こ</sup>げ<sup>こ</sup>抱<sup>こ</sup>し<sup>こ</sup>あ<sup>こ</sup>て<sup>こ</sup>ま<sup>こ</sup>ろ<sup>こ</sup>と<sup>こ</sup>斗<sup>こ</sup>り<sup>こ</sup>あ<sup>こ</sup>ら<sup>こ</sup>  
ま<sup>こ</sup>ろ<sup>こ</sup>ま<sup>こ</sup>ら<sup>こ</sup>悲<sup>こ</sup>歎<sup>こ</sup>ふ<sup>こ</sup>涙<sup>こ</sup>を<sup>こ</sup>け<sup>こ</sup>り

松の花初編卷之上終





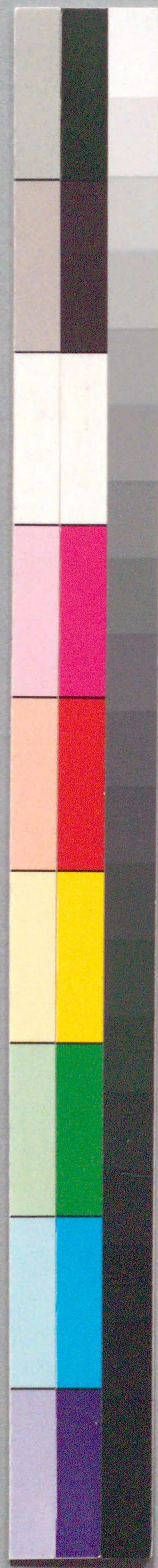
208  
15  
696

国立国会図書館 松の花 5編 208-696

ガラス使用







国立国会図書館 松の花 5編 208-696



ガラス使用

